



しんじゅ

No. 33
2023年8月10日

発行所：社会福祉法人 しんじゅ
発行人：猪坂 一彦

本部事務所
ホーリーツリー東部
たおじ分室
ホーリーツリー西部
ホーリー離宮
ホーリーハウス
ステーションしんじゅ
福祉の店「いたやど」
ホーリー須磨
ホーリービンゴ
ホームページ

☎739-5350 〒654-0054 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
☎821-1586 〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22
☎987-2532 〒651-1312 神戸市北区有野町有野字白原3689
☎739-5360 〒654-0054 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
☎754-6760 〒654-0065 神戸市須磨区離宮前町1-1-29
☎739-5390 〒654-0054 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
☎731-3340 〒654-0065 神戸市須磨区離宮前町1-1-29
☎733-2477 〒654-0022 神戸市須磨区大黒町2-2-12
☎739-5359 〒654-0054 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
☎846-1812 〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22
http://www.shinju.or.jp

巻頭言

【気づき】

理事長 猪坂 一彦

朝の通勤電車の中、殆どの乗客は携帯電話に見入っています。お喋り自粛の静かな車内で新聞を読んでいるのは私一人。気になった記事二本。

神戸新聞(6/9付)「人脚本家の坂元裕二さん」より。「どうしたら人は自らの加害性に思い至るのか。そんな問いを十年余り抱えてきた。きつかけは、車の運転中に前のトラックが止まって動かなくなってしまったこと。クラクションを鳴らしたら、トラックの前の横断歩道に車椅子の人がいた。その際に芽生えた後悔が、今作の『種』（映画「怪物」）になった。」

どうしたら人は自らの加害性に思い至るのだろうか。知らず知らずの行為や言動を改めて考えなければならぬと気づきました。

もう一つ、神戸新聞(4/3付)「学校法人睦学園創立百周年記念講演 教育評論家の尾木直樹氏」より。

「『今年の赤ちゃんは反応や感情表現が乏しい』という報告を受けた。喜怒哀楽の感情は一歳半ぐらいまでを中心に形成されるのに、マスクで口元が隠れて保育士や親らの感情が十分伝わらないのだ。またマスク生活は四十一歳に身に付く共感能力への影響も危惧され、調査が進む。」
コロナ禍は将来を託すべき子供にも影響しているというのです。

5類移行後もコロナは依然ほびこっています。外せないマスク越しで意思疎通を図りつつも、自己の行為・行動を見直す機会だと思っています。

そして、肝要なのは「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」ではないでしょうか。

社会福祉法人「しんじゅ」の理念

1. 愛情をもってふれあい、共生の中で人間性豊かな人生を築こう
2. 安全で、安心して生活できる場を実現しよう
3. 自由で尊厳ある人生を全うしよう

ホーリーツリー東部たおじ分室

管理者 太田 すみ代

『たおじ分室』は開所25周年を迎えました

たおじ分室は25周年を迎えました。作業所から始まり、さをり織りした織物で商品を作り、ステンシルした布で布巾を作り、それぞれ販売していた時の事、瞬く間に過ぎ去った日々の事が懐かしく思い出されます。



今は生活介護に移行し、少人数ではありますが利用者様が健康で落ち着いた日常生活を楽しく、快適に過ごして頂けるように愛情をもって寄り添っていけるよう職員一同努力していきたくと思います。

注：たおじ分室は平成10年4月6日に「たおじ作業所」として現在地で開所。



※神樹の会会報No44(平成10年5月27日)「たおじ作業所」紹介記事再掲。
【就労の得がたい在宅重度身体障害者が地域で「生きる場」をとの強い願いから、北区の重度障害者作業所第一号としてオープン。】

社会福祉法人しんじゅ「福祉バザー」(続報)

「しんじゅ福祉バザー」は2回目以降の会場を「福祉ショップいたやど」の倉庫に移して開催しました。神戸市・神戸市教育委員会・神戸市PTA協議会・神戸市社会福祉協議会・神戸新聞厚生事業団から変わらぬご後援を賜りました。前号の報告につづいて、

- 第2回：令和4年12月15日(木) 10:00～15:00
第3回：令和5年2月15日(水) 10:00～15:00
第4回：令和5年4月14日(金) 10:00～15:00
第5回：令和5年6月15日(木) 10:00～15:00

を開催しました。6月の第5回は断続的な雨にたたられましたが、なべて予定通りの目標を達成できました。

「しんじゅ福祉バザー」を担ってこられたボランティアの方々には大変なご苦勞をお掛け致しました。

毎回、会場にお見えいただくお客さまや、「どうぞ見て行ってください」の呼びかけに立ち寄られたお客さまから、身の上話を伺ったりして和やか場を持つことができました。残すは、

- 第6回：令和5年8月16日(水) 10:00～15:00 のみ。

最終回も頑張って売上増を図ります。

商品を提供いただいた方々、ボランティアの方々、関係各位にはお世話になりました。厚く御礼申し上げます。



勉強会

成年後見制度を学ぶ

当法人は、当初の「神樹の会」から現在の「社会福祉法人しんじゅ」まで長い歴史を辿ってまいりました。養護学校卒業と同時に「神樹の会」を利用された方も高齢者になりました。利用者とともに保護者も齢を重ね、「将来への憂い無く」は保護者や法人にとっての切実な思いとなっています。

「成年後見制度とは、知的障害・精神障害・認知症などによってひとりで決めることに不安や心配のある人が、いろいろな契約や手続をする際にお手伝いする制度です(厚生労働省)。」

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会にお願いし、保護者・職員同席で当制度を学びました。

講 師：神戸市社会福祉協議会

神戸市成年後見支援センター

藤原 寿子 さま

日 時：令和5年7月14日(金) 10:30～12:00

場 所：しんじゅ ホーリーツリー4階「しんじゅホール」

「親なきあと」は「親なき前に」

当日は、保護者・職員計22名が参加し、講義後には活発な質疑応答が交わされました。

感謝

●寄付(敬称略・五十音順)
令和4年12月～令和5年6月の間に次の方々から尊い寄付を頂戴しました。
植村 綾子 (株)スターパック 東郷 賢治 宮脇 尚志

外出できるようになりました。
料理・創作活動にもはげんでいます。



これからも利用者さんの入浴時間が快適で楽しい時間になるよう、大事に使用致します。



コロナ感染症が2類から5類への移行により、利用者の明るい笑顔が戻ってきたように思います。外出やレクリエーションなどを写真とともにお知らせします。また、保護者と一緒の勉強会を行いました。

安堵も束の間、コロナ禍第9波予想に緊張を強いられることになりました。この手強い相手に慎重に対処しながら、乗り切っていかなければなりません。

(編集員一同)

早くも次の行事を考えて下さる方もいて、今から楽しみにしています。食事後は明石海峡大橋をバックに初めて全員で記念写真を撮りました。これからも多くの楽しみと笑顔あふれる生活を送っていただきたいと思います。



をハード面でも提供できる日の実現を願いつつ、スタッフ一丸となり切磋琢磨していきたくて思っております。〃父の日〃に作りました「箸置



外出では毎年恒例のお花見をしに垂水区の海釣り公園に行ってきました。予想よりも早い桜前線の北上に花見ができるか心配でしたが、花見がしたいというみんなの熱意に負けたようで何本かの桜が咲いてみんなを待っていてくれました。



もう一人は巨人ファンですが久し振りにレフトスタンドで応援することが出来ました。この数年間は外出も思うようにいかず利用者さんにも支援者にももどかしい日々でありましたが少しずついろいろな所にお出かけをして楽しんでいただけたらと思います。

